荒木圭一

歯科医院と介護現場の橋渡し役として訪問歯科診療の現場に入り日々活動中。医師、看護師、介護スタッフ、ケアマネージャー、PT、ST、栄養士など多職種連携に力を入れ、歯科は介護スタッフの一員として位置づけ、地域発信やコミュニティー立ち上げに尽力する。
また、楽しい職場つくりを目指し様々な取り組みを実施する。

演題

訪問歯科に携わる人生ー楽しく生きる

～チームで支える口腔ケアースタッフの幸せつくり～

訪問歯科診療に携わり１０年になります。
　様々な経験をさせていただきました。病気を有する患者との一期一会の関係。様々な職種との連携の必要性を強く感じ、コミュニティー活動にも力を入れてきました。
　また、今日診ている人が翌週には認知症により忘れる。尊い命を失くしてしまう。そのように「看取り」にも携わることも多いのがこの現場です。その日を全力でかかわることの大切さを知りました。今回は、患者から学んだ人生の生き方や、それを支える私たち医療者としての心構えや在り方もお話しさせていただければと思います。
　当医院は毎日笑顔で過ごしております。楽しい職場つくりを目指しております。開業から現在までの軌跡の中で感じ取られた経営方法、壁の乗り越え方「あきらめなければ花開く」「身を置く環境の大切さ」を交え皆さんと共有出来たらうれしいです。

富久清孝

演題

噛める義歯　　～食支援の重要アイテム～

訪問歯科における義歯の役割

咀嚼→摂食→嚥下（義歯と食支援）

近年、インプラント治療が隆盛である。インプラントはよく噛めて義歯は噛めない、インプラントは自費で義歯は保険がきくため歯科医師の収入としては少ない、ということもあって、義歯を軽視する傾向が認められる。

しかし高齢者の場合、全身疾患の関係で新たにインプラント埋入が不可能なケースや、メインテナンス不全のためにインプラント周囲炎が悪化するケースも多く見受けられる。超高齢化社会の現在、改めて「噛める義歯」は重要視されるべきである。「噛める義歯」により食事の喜びを回復させ、摂食機能低下の改善や予防を図り、それがひいては低栄養・オーラルフレイルの予防、生活の質の低下、転倒や誤嚥性肺炎、認知症進行の予防、介護予防や「安らかな看取り」に繋がる。

当院は訪問歯科を中心に診療を行っているため、患者様の大多数が高齢者や有病者であり、摂食機能の障害がある。当院の義歯症例を紹介し、当院の食支援の取り組みを御覧に入れたい。